

博物館だより

第58号

2003.3.28

Nagano City Museum

特別展

「あの世・妖怪—信州異界万華鏡—」開催
4月19日(土)～6月1日(日)



百鬼夜行絵巻(松代藩文化施設管理事務所)



志ん板猫の吹矢(国立歴史民俗博物館)

記念講演会

4月27日(日)

「善光寺信仰と怪異」

西山 克氏(関西学院大学教授)

5月18日(日)

「妖怪学の楽しみ」

小松和彦氏(国際日本文化
研究センター教授)

いずれも午後2時より

博物館2階会議室 聴講無料



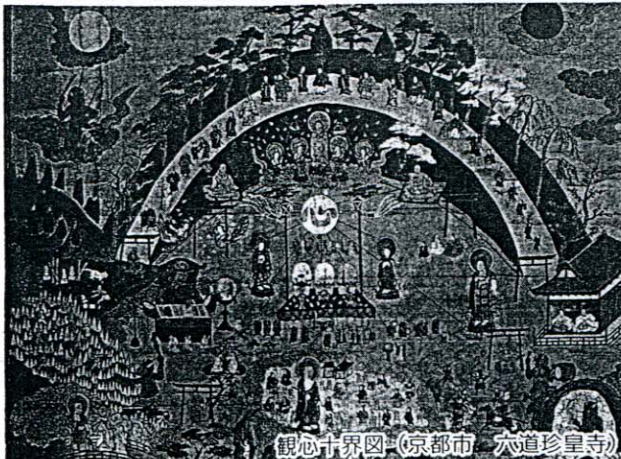
幽霊画(駒込根浮世絵版画美術館)

関連行事

①妖怪からくり的(毎土曜日)
矢を的に当てるとお化けが出るよ!

②地獄パズル(常時)
地獄パズルを完成させよう!

③妖怪うちわ作り
5月5日(月・祝日)、24日(土)
午後2時～



観心十界図(京都市 六道珍皇寺)



地獄図(野沢温泉村 野沢組)

「あの世・妖怪-信州異界万華鏡-」展のご案内

みなさんは「異界」という言葉をご存知ですか？
あるいは知っていても、あまり日常使う言葉ではないかと思います。「異界」、とは、私たちが生活している日常世界とは別の世界、つまり私たちとは異なる世界を意味しています。

別の世界とはどんな世界なのでしょう。昔の人たちは、いろいろな世界を想像しました。地獄や極楽の世界、妖怪たちが闊歩する世界、神さまが住む世界、仙人が暮らす世界などなど。そしてこれらの世界はそれぞれが全く隔絶されたものではなく、時と場合によっては近づき、交じり合うこともある身近な存在と考えられていました。夕暮れ時や夜道に出没する妖怪や幽霊の話、知らないうちに仙人の住む山へ足を踏み入れてしまった人の話、臨死体験をして地獄を見てきた男の話など、異界との接触をテーマとした話はいくつもあります。

昔の人たちが異界の存在を想定し、また身近な存在と考えていたのには理由があります。自分たちの世界で起こる説明不可能な出来事を目の前にして、何とか合理的な解釈を試みようとしたとき、異界の存在がその答えを導いてくれたからです。

例えば「人は死んだらどうなるのか？」の問いには地獄や極楽といった異界を作り出し、人が突然いなくなる神隠しを天狗や神さまの仕業とみなしました。また夜に聞こえる正体不明の音や光を妖怪の仕業とし、医者に診せても治らない病気は、妖怪が取り付いているためだと考えました。

現在、私たちの世界では科学の発達により、新しい発見、新しい知識が増え、昔ほど説明不可能な出来事は少なくなりました。それに伴って、異界の存在も小さくなってしまったようです。

わからないことがわかるようになり、不思議とされてきたことが次々に科学的に解明されることは素晴らしいことです。けれどもそのために、これまで作り上げられてきた豊かな異界のイメージがなくなってしまうのは残念なことです。

今回の展示では、主に江戸時代の資料を中心に当時の人たちが想像した異界のイメージを地獄・極楽の図、妖怪画、怪談、奇談といった話を手がかりに見ていきます。

豊かな想像力でお化けを生み出した当時の人たちの想像の世界を楽しんでみてください。

(細井雄次郎)

あの世の世界

あの世の世界のイメージは、平安時代の天台僧源信の『往生要集』により、仏教の影響が強い地獄と極楽の世界として定着しました。



▲地獄図 (野沢組)



▲地獄極楽図 (長野市 典蔵寺)

妖怪の世界

ゲゲゲの鬼太郎でおなじみの妖怪たちは、すでに江戸時代には生まれていました。
今回の展示では江戸時代に作られた妖怪図鑑も展示します。



▲百鬼夜行之図（松代藩文化施設管理事務所）

怪談・奇談の世界

信濃に伝わる奇談・怪談を資料と写真で紹介しま
す。



▲狐の詫び証文（長野市 熊野出速雄神社）
人間に取り憑いた狐が、今後は一切取り憑くよ
うなことはしめせんと書いた証文



▲魔邪退治の袈裟（長野市 静松寺）
江戸時代、死人を連れ去ろうとする怪物を、和
尚さんが退治したときに用いた袈裟と念珠



▲妖怪画（小布施町 中島敏夫氏）

小布施の豪商高井鴻山は、好んで妖怪画を描
きました。その妖怪は北斎や暁斎との交流の中
で生まれた彼独自のものです。

異界妖怪探訪③～極楽へのパスポート～善光寺の御印文

信濃の善光寺を異界という視点で見ると、その存在は極楽と地獄の狭間^{はざま}に建つ寺といえることができます。善光寺は、生身^{しょうじん}の阿弥陀様と結縁^{けつえん}を結ぶ極楽空間。一方その周辺は、中世の五輪塔が出土するように葬送の地（地獄）であり、死者とあえる場所とも信じられていました。こうした二つの世界が渾然^{こんぜん}とする世界だからこそ、極楽往生が強く意識されたのかもしれません。

さて、こうした善光寺には極楽往生のための様々な仕掛けが用意されています。その一つに「御印文」があります。御印文とは善光寺如来の宝印のことで、善光寺では毎年1月7日から15日まで、堂童子^{どうどうし}と呼ばれる役僧によって一般の参詣者に授けられます（写真①）。この印を額に押して頂くと、だれでも極楽へ行けるというありがたい宝印です。

さて時は江戸時代、地獄の閻魔様^{えんま}が近ごろ地獄に落ちる亡者^{もうじや}が少ない。これは何かあるのではと調べさせたところ、信濃の善光寺に御印文というものが流行っている。この印を押してもらって極楽に行くものが増え、地獄に来るものが少なくなったことがわかった。そこで閻魔様は、天下の大泥棒石川五右衛門にこの印を盗み出させようと善光寺へ使わした。五右衛門はまんまと印を盗み出したまではよかったが、そんなにご利益がある印ならと自分の額に押してしまった。五右衛門はさっそく極楽へ行ってしまう、地獄の閻魔様にこの印を届けることが出来なくなった、という笑い話が作られました。この御印文に関する笑い話は他にもあり、御印文が広く庶民に知られていたかがわかります。

写真②は中世の善光寺の如来宝印（御印文）です。この印は山形県米沢市法音寺に伝わるもので、川中島合戦の折り、上杉謙信によって善光寺から越後へ運び出され、その後上杉氏とともに米沢へと運ばれたものです。同様に甲府市の甲斐善光寺にも、武田信玄によって善光寺から運ばれた御印文が伝えられています。両将によって

持ち出されるほど、この御印文が善光寺信仰を支える重要な寺宝だったことがわかります。

御印文にはもう一つ、こんな話も伝わっています。この印は俗に「ごはんさん」とも呼ばれ、ごはんとは5つの判を意味し、その内の3つが善光寺に、一つは戸隠神社に、もう一つは長野市篠ノ井塩崎の長谷寺に伝えられているというものです。たまたま今年から来年にかけて、この3つの印を授けることができます。戸隠神社では4月27日から5月20日まで、7年に1度の式年大祭が行われ、この印も公開されます。長谷寺の御印文は、毎年1月7日に「七草御印文お授け」として押していただくことができます。7年に一度のこのチャンス、ぜひお見逃しのないように。なお、法音寺に伝わる御印文は、当館で4月19日から行われる『あの世・妖怪—信州異界万華鏡—』に展示します。

（降幡浩樹）



①御印文頂戴の様子（長野市 善光寺）



②中世の善光寺如来宝印（米沢市 法音寺）



昨年発行した「博物館だより」第55号で、松代温泉が化石海水型温泉であるという記事を掲載しました。ところが、市内からまた新たに化石海水がみつかりました。場所は七二会倉並の排水トンネル内です。

ここでは、地滑りの対策工事として、地滑りの原因になっている地下水を抜くための大規模な工事が進められています。化石海水は、排水トンネル内から掘られた多数の横穴ボーリングの一部から湧き出しています。トンネルの中に入ってみると、湧き出し口の辺りにほのかに潮の香り(?)が漂っていました。水抜き孔からポタポタとした水をなめてみると、少し薄まってはいますが、まさに海水の味がしました。周囲の地層は500～600万年前のものなので、約500万年前の海の水ということになります。

◆化石海水とは?

海底の泥や砂は、粒子の隙間に海水を含んでいます。地層が厚く積み重なると、上からの重さによって外に絞り出されますが、それでも粒子の隙間には少しの海水が残ります。このようにして大昔の地層の中に残った古い海水のことを化石海水といいます。

地盤が隆起して陸地になると、雨水が地下に浸み込み、地下水となって地層の中へ浸透します。地層中の化石海水は、地下水によって少しずつ薄められ、やがて無くなってしまふのが普通です。しかし、化石海水を含んだ層が水を透しにくい地層(泥岩層)や岩盤に囲まれている場合は古い化石海水が残ることがあります。七二会の化石海水は、厚い泥岩層の中の泥混じりの部分に含まれていて、地下水をほとんど透さなかったためにそのまま残ったのだと考えられます。

◆化石海水の成分

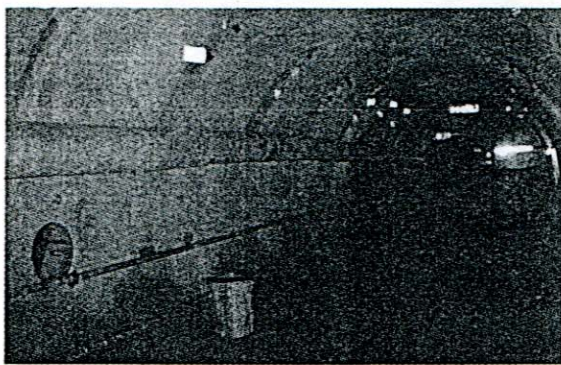
七二会の化石海水とはどんな水なのでしょう?主な成分を海水と比べてみましょう。

ご存じの通り、海水の主成分は塩化ナトリウムです。七二会の化石海水の成分をみると、マイナスイオンでは塩素イオンの濃度が最も高く、海水の約3/4という高い値を示しています。この値は、以前「化石海水型温泉」として紹介した松代温泉(海水の29～46%)よりも高い値です。

プラスイオンでは、ナトリウムイオンの濃度が最も高く、海水の約67%含まれています。そのほかには、カルシウムイオンが海水とほぼ同じぐらい含まれていますが、マグネシウムイオン(にがり成分)やカリウムイオンは海水の1/10以下しか含まれていません。恐らく、地下に長く閉じこめられている間に地層中の泥や砂と反応して、含まれている成分の割合が少し変化したのだと考えられます。

このように、七二会の化石海水は元の海水よりも少し薄くなっていて、成分も多少変化しています。しかし、海洋汚染が無い時代の清浄な水であり、にがり成分が抜けているため、煮詰めればとても良い塩ができます。地元の方々が化石海水の塩を使ってお焼きを作って食べたところ、とてもおいしかったそうです。

最後に、七二会の化石海水を紹介するにあたり、七二会地区の皆様並びに、長野県土尻川砂防事務所、青木・高木建設共同企業体の方々に大変お世話になりました。ここに記して厚くお礼申し上げます。(畠山幸司)



▲化石海水が湧き出している場所。天井の水抜き孔から落ちて、下のバケツの中に溜められている。

	海 水	七二会の化石海水
塩素イオン Cl^-	19350	14000
硫酸イオン SO_4^{2-}	2690	1.0 未満
炭酸水素イオン HCO_3^-	140	170
ナトリウムイオン Na^+	10760	7000
マグネシウムイオン Mg^{2+}	1290	130
カルシウムイオン Ca^{2+}	410	420
カリウムイオン K^+	390	14

▲海水と七二会の化石海水の主要成分の比較(単位:mg/ℓ)

天文講演会 オーロラからのメッセージ

2月16日(日)午後2時から博物館会議室において天文講演会を開催しました。雪が激しく降りしきり、大雪に見舞われたにもかかわらず、会場は聴講者であふれんばかりになりました。講師の先生は、名古屋大学太陽地球環境研究所長の上出洋介氏です。上出所長は、幼い頃からオーロラを含め宇宙や地球の不思議な現象に興味を持ち、将来科学者をめざしました。東京大学大学院卒業後は、アラスカ大学を始め、コロラド大学、アメリカ国立宇宙環境研究所など数々の研究施設で研究を重ね、現在はオーロラ研究の第一人者です。今回の講演会の要旨は次の通りです。

一度は見てみたいオーロラ、そして見たことがある人はもう一度見てみたいのがオーロラです。オーロラの美しさとその壮大さは人間の創った言葉ではとうてい表現することができません。その神秘さは、色・形・動きなど見るたびに違い、二度と同じオーロラは現れないことにあります。特に頭上を中心に全天で繰り広げられる明るくさまざまな色の激しいオーロラの舞「ブレイクアップ(オーロラ爆発)」は、言葉を失うほど素晴らしい現象です。オーロラの妖しい動きを目の当たりにすると、疑問がたくさん浮かんできます。一般的に誤解されていることもいくつかあるようで、その例を次に挙げます。

◆オーロラは寒ければ寒いほどよく現れる？

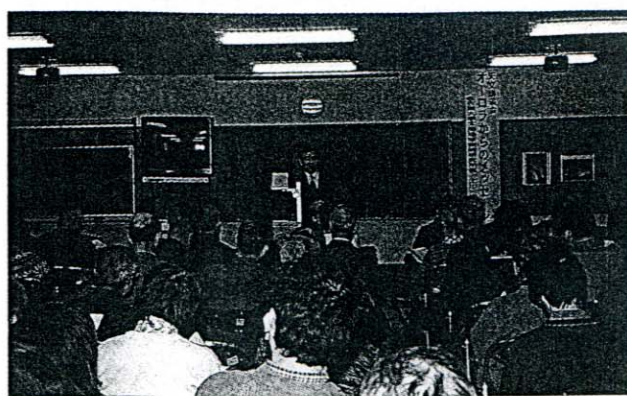
→NO!

オーロラの出現と地上の気温は全く関係ありません。



「感動」の一語…ブレイクアップ

2月1日 カナダ イエローナイフにて



せん。オーロラは地上ではなく上空100km以上の宇宙で起こっている現象ですから地上の寒さとは無縁なのです。

◆オーロラは北極点や南極点でよく見られる？

→NO!

オーロラは北極や南極に近いところで見られますが、極点ではほとんど見られません。よく見られる所はオーロラ帯といい、ドーナツ状の帯の部分で、北半球ではアラスカ～カナダ北部～グリーンランド南部～アイスランド～スカンジナビア北部～シベリア北部を通っています。

◆太陽活動が活発な時でないときオーロラが見られない？→NO!

太陽活動は約11年周期で変動していますが、太陽活動が活発でない極小期でもオーロラはたくさん見られます。太陽活動周期は黒点の活動をもとに便宜的に創られたもので、太陽活動そのものは黒点活動だけではありません。太陽のコロナホールからもオーロラを引き起こす太陽風が吹き出しているのです。コロナホールの存在も重要です。黒点活動のピークを過ぎ下降してきている今年も、磁気嵐に伴う活発なオーロラが見られています。

(左写真)

その他にも、オーロラの科学的メカニズムなどもわかりやすく、しかもユーモアをたっぷり交えて楽しくお話いただきました。最後に、地球磁場の現象に伴い、日本でも毎日のようにオーロラが見られる時期がやがてやって来るといいたいへんセンセーショナルなお話がありました。それは800年～1000年後とということです。(大蔵 満)

5月13日(火)
~6月1日(日)

北村家文書（川合新田）

◆風呂をたてる

現在の入浴法は、湯槽に湯をわかして、その湯につかり、外に出て体を洗い流します。風呂を沸かすことを「風呂をたてる」といっています。

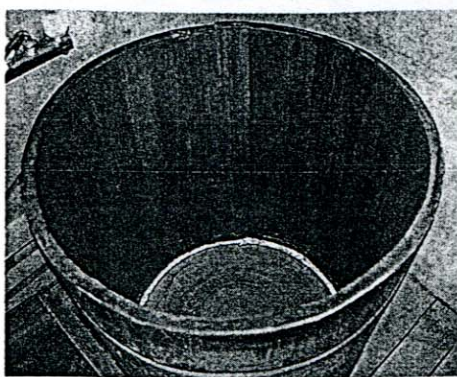
しかし、古代から江戸時代初期頃までは、風呂といえは蒸し風呂のことだったようです。

◆寄贈された五右衛門風呂

五右衛門風呂は、市内栗田の宮沢通生さんから寄贈していただきました。現代的な浴室の中でのこの風呂の存在は、独特な風情を醸し出していました。桶は市内西尾張部の丸山桶店の製作です。

五右衛門風呂は、体の芯から暖まり、今のユニットバスなどとは全く暖まり具合が異なり、長年愛用されたようです。しかしながら、冬の水の冷たいときは風呂を沸かすのに2時間位かかって苦労したようです。今般風呂場を改造するにあたり、長年活用されてきた五右衛門風呂は、博物館で収蔵することとなりました。

風呂の全体は、耐火煉瓦を積み上げて焚き口と火袋（燃焼部）を造り、その上に鋳物製の釜をの



せて、コンクリートで塗り固めてありました。釜の直径は尺8寸（二番釜という）で、それ

に合わせて作られた底なしの桶が釜の上にのり、湯に浮かんだ木製の板（じょう板）を踏み沈めながら湯につかるようになっていきます。桶は、立て膝で一人が中に入る大きさです。

◆風呂事情

一般の家庭で自家風呂が普及するのは昭和30年代以降のことで、それまでは五右衛門風呂や鉄砲風呂が使われていました。自家風呂の普及とともに風呂場という仕切られた空間が生まれました。日本の高度経済成長に合わせて、風呂や風呂場は随分と変わってきました。風呂は時代と住宅事情など暮らしの変化を如実にもの語る「語り部」

ではないかと思います。

◆風呂桶のこと

釜の直径が尺8寸なため、桶下端の直径はそれに合わせ、上端はどの釜でも2尺5寸、高さも2尺5寸という規格で桶は製作されました。桶のタガは上部で5条の針金（12番線）、下端で1条と2条のタガが3本の針金をなっけてかけられています。桶材は、サワラで長さが2尺5寸の材が束になって木曽郡上松町からきたようです。

釜と桶とのすき間は水漏れ防止のため、火縄（ヒノキの皮）を燃り合わせて詰めました。

◆町場と農家の風呂

町場では鉄砲風呂が多く使われ、薪が焚き物として用いられました。上が熱く、下がぬるいため、湯をかきまぜて入ることが必要でした。

これに対して、五右衛門風呂は、焚き口から釜の下一体に火があたる構造になっているため、鉄砲風呂より沸きが早く、しかも燃料を選ばず何を焚いてもいいので、経済的な風呂として、農家では広く用いられました。

◆桶の転用

昭和30年代に五右衛門風呂が長州風呂などにとって変わると、使用されなくなった桶側は底板を入れて田畑の消毒液の容器として転用されました。この桶はちょうど1石の容量があり具合が良く重宝したようです。

◆五右衛門風呂がある風景

どこの家にも風呂が無かった頃には、「今晚は風呂があるから、へえりきてくらい」と近所に知らせる「もらい風呂」といった習慣がありました。五右衛門風呂は、ダイドコロの土間にかわらっかけ（瓦片）と粘土でカマドを築き、その上に釜を固定し、さらに桶をしつらえた直焚き釜でした。

昭和の初め頃の長野盆地では、ワラ葺き屋根の土間に五右衛門風呂があり、じょう板が浮いていて、これを踏んで湯に入りました。明かりはランプ、そして洗い場はたらいにわたした板でした。焚き物は養蚕がさかんだったので桑棒、焚き付けは麦わらでした。薄暗い入浴でしたが、この後茶の間ではお茶と野沢菜の漬物で夜の更けるのも忘れて談笑しました。（山口 明）